

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

1日

仏滅 箕

旧7月10日

月曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

おん ぞく なん

怨賊難

「盗賊に襲われることはない」

『観世音菩薩普門品』に説かれる七難の第七は「怨賊難」です。

貿易のために大規模な商隊が険路を行くときに、観世音菩薩を念ずれば盗賊に襲われることはいと説かれています。

商隊の一人ひとりが観世音菩薩を念ずることによって、恐怖心やパニックを起こすことなく準備を整え、不測の事態にも対応できるのだと受け止めればよいと思います。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

2日

大安 斗

旧7月11日

火曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

さん どく
三毒

「苦しみの根源とされる煩悩」

「三毒」とは苦しみの根源とされる「貪欲・瞋恚・愚痴」の三つの煩悩のことです。

あれもこれも欲しいと欲望が膨らむの「貪欲」、思い通りにいかないと怒りが爆発する「瞋恚」、つまらないことばかりに心が囚われる「愚痴」。

この三毒が生じたときに、観世音菩薩を念じれば離れられると説かれています。

一心に慈悲深い観世音菩薩を敬うことで、観世音菩薩の御心が自分にも備わってくるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

3日

赤口 女

旧7月12日

水曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

若にやく有う女によ人にん

「若し女人有りて」

もし女人があつて、観世音菩薩を礼拝供養すると、男子の出産を望めば福德があり智慧の深い男子を授かり、女子の出産を望めば見目麗しく愛嬌のある女子を授かるだろうと説かれています。子供が胎内にいるうちに仏さまの教えを与える大切さ、母親が子を想う慈悲心の大きさを現わしている経文だと思えます。男女の産み分けを祈念するのではなく、授かった生命を大切に育もうと願いまししょう。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

4日

先勝 虚

旧7月13日

木曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

是二人福

「この二人の福」

「二人の福」とは、六十二億恒河沙という量り知れない数の菩薩の名を呼び供養を尽くした人と、一時でも観世音菩薩に帰依し観世音菩薩の名を呼んだ人、この二人が得る功德は同じであると説かれています。

仏さま・菩薩さまの教えは皆同じ、衆生を救うための教えです。

たくさんの仏さまに帰依しても、一人の菩薩さまに帰依しても、功德は同じということです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

5日

友引 危

旧7月14日

金曜

妙法蓮華経如観世音菩薩普門品第二十五

かん のん

さんじゆう さんしん

観音の三十三身①

「観音さまは相手に応じて姿を変えて導く」

観世音菩薩は相手に応じて姿を変えて、相手にふさわしい教えを説かれます。

①～③三聖身：悟りを得た仏・悟りを得ようと

修行する辟支仏・声聞の三身

④～⑨天身：梵王・帝釈・自在天・大自在天・

天大將軍・毘沙門天の天界の六身

⑩～⑭五人身：小国の王・長者(富豪)・居士(在家

仏教信者者)・宰官(役人・文官)・

婆羅門(司祭・学者)の五身

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

6日

先負 室

旧7月15日

土曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

観音かん のんの三十三身さんじゅうさんしん②

「観音さまは相手に応じて姿を変えて導く」

⑮～⑱ 四部衆身：比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷

の男女の出家者と信者の四身

⑲～⑳ 四婦女身：長者・居士・宰官・婆羅門の婦

人たち四身

㉓～㉔ 二童身：童男・童女の二身

㉕～㉚ 八部身：天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・

迦楼羅・緊那羅・摩睺羅伽の八身

㉛ 執金剛身：仏法の守護神である金剛力士

「三十三身」は相手に応じて導くことの喩えです。

法華経 日めくり

白露

仏滅 壁

旧7月16日

令和7年 乙巳

2025年

9月

7日

日曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

いしゆじゆぎよう ゆうしよこくど

以種種形 遊諸国土

「相手に応じて態度や解き方を変えて導く」

観世音菩薩は一切衆生を救うために常に心を配り、相手に応じてあらゆる姿に変えて、どこへでも赴き導いてくださる存在です。

自分もかくありたいと観世音菩薩にならい慈悲心を持って人に接し、相手の幸福を願って生きることが観世音菩薩への供養にもなるのです。観世音菩薩のような慈悲心を持っていれば、不意に厄災に襲われたとしても、畏れることなく平常心を持って対応できるようになるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

8日

大安 奎

旧7月17日

月曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

おふい きゆうなんしちゆう のうせむい

於怖畏急難之中 能施无畏

「畏れの多い世の中に、畏れるものは無いと導く」

観世音菩薩は苦悩の多い険悪な世の中でも、畏れることはないと導いてくださいます。

周囲の人や世間に対して求めるものがあるから、周囲が変わると不安になるのです。

観世音菩薩を見習って、慈悲深い心で人々に接し、何の見返りも求めず、皆の幸せを望み善行を施していけば畏れるものは無くなるでしょう。

故に人を相手にするのではなく、人間以上の存在である仏菩薩を信じるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

9日

赤口 婁

旧7月18日

火曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

ふ こう じゅ し

不肯受之

「あえてこれを受けず」

無尽意菩薩は感謝の思い込めて観世音菩薩に宝珠の首飾りを捧げました。

しかし観世音菩薩はこれを受け取りません。

見返りを求め皆に施したのではないからです。

それに対しお釈迦さまは、皆の思いを受け止め

ることも慈悲であると観世音菩薩を諭します。

そこで観世音菩薩は首飾りを二つに分けて自分

を導いてくれたお釈迦さまと多宝如来に感謝の

思いを捧げられたのでした。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

10日

先勝 胃

旧7月19日

水曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

によちよう かんのん ぎよう ぜん のう しょ ほう しょ

汝聴観音行 善応諸方所

「観音の行を聴け 善く諸々の方所に応ずる」

「なぜ観世音菩薩と名付けられたのですか」という無尽意菩薩の質問に対して、お釈迦さまは、「観世音菩薩がどのような修行をしてきたのかを聴いて学ぶように」とお答えになりました。

「方所」とは、一切衆生の暮らしや境遇のこと。一人ひとりの「方所」に応じて救い導いくために観世音菩薩は「三十三身」を現わされたのです。そして、ひたすらに多くの衆生を導いく善行を重ねて菩薩になられたということです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

11日

友引 昴

旧7月20日

木曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

弘誓深如海 歴劫不思議

「弘誓の深きこと海の如し 劫を歴とも思議せじ」

「弘誓」とは「四弘誓願」のこと。

菩薩は初発心時にこの大願を発します。

- ① 一切衆生を救う
- ② 一切衆生の煩惱を断じる
- ③ 諸々の法門を知り尽くす
- ④ 無上の仏道を行じ成就するという四つの誓願です。

観世音菩薩の誓願は、海のように深く、私たちがどれほど長い時間をかけて考えても及ばないほど堅固なものであると説かれています。故に一切衆生を救うことができるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

12日

先負 畢

旧7月21日

金曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

もんみよう ぎつ けんしん しん ねん ふ かう か

聞名及見身 心念不空過

「名を聞き及び身を見、心に念じむなしく過ぎ」

「名を聞く」とは、その説かれた教えを学ぶこと。

「身を見る」とは、その行いを見習うこと。

「心に念じる」とは、その力を信じ切ること。

この三つの受持を「三業受持」といいます。

観世音菩薩を範として励めば苦を減することができる
できると説かれています。

観世音菩薩を見習って人々のために尽くすこと
が、苦の根本となる迷いを断つことになっていく
というのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

13日

仏滅 齋

旧7月22日

土曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

ねん び かん のん りき

念彼観音力

「観音の力を念じる」

「念彼観音力」と、「三業受持」を前提として観世音菩薩を念じると現れる様々な功德が『観世音菩薩普門品』の偈文『普門偈』に説かれています。前述の火難・水難・羅刹難・刀杖難・鬼難・枷鎖難・怨賊難の七難をはじめとするさまざまな災難を逃れられると具体的に説かれています。周囲に求めるものがなく、どのような境遇においても畏れることがない観世音菩薩を念じることが難を逃れる力になるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

14日

大安 参

旧7月23日

日曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

かんぜ おん ぼ さつ しよなんきゆうさい

観世音菩薩の諸難救済①

「観世音菩薩は諸難から救う」

『普門偈』に説かれている十二の諸難救済です。

① 落火坑難：火の穴に落とされてもその穴が水の池と変わる↓怒りや嫉妬の火に焼かれない

② 漂流難：大海原に漂流しても波が静まる↓欲望の海に流されない

③ 墮須弥山難：須弥山から墮とされても虚空に留まる↓浮かれすぎることなく心を引締める

④ 墮金剛山難：高山から突き落とされても一毛も損なわない↓厄災にも心が折れない

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五

於怖畏急難之中。能施無畏。是故此娑婆世界。皆号之為。施無畏者。無尽意菩薩。白佛言。世尊。我今當供養。觀世音

菩薩。即解頸。衆宝珠瓔珞。徧直百千兩金。而以与之。作是言。仁者。受此法施。珍宝瓔珞。時觀世音菩薩。不肯受

之。無尽意。復白觀世音菩薩言。仁者。愍我等故。受此瓔珞。爾時佛告。觀世音菩薩。當愍此無尽意菩薩。及四衆。

天。龍。夜叉。乾闥婆。阿脩羅。迦樓羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等故。受是瓔珞。即時觀世音菩薩。愍諸四衆。及

於天。龍。人非人等。受其瓔珞。分作二分。一分奉釈迦牟尼佛。一分奉多宝佛塔。無尽意。觀世音菩薩。有如是自在神

力。遊於娑婆世界。爾時無尽意菩薩。以偈問曰

世尊妙相具 我今重問彼 佛子何因緣 名為觀世音 具足妙相尊 偈答無尽意 汝聽觀音行 善忘諸方所 弘誓深如

海 歷劫不思議 侍多千億佛 發大清淨願 我為汝略説 聞名及見身 心念不空過 能滅諸有苦 假使興害意 推落

大火坑 念彼觀音力 火坑變成池 或漂流巨海 龍魚諸鬼難 念彼觀音力 波浪不能没 或在須弥峰 為人所推墮

念彼觀音力 如日虚空住 或被惡人逐 墮落金剛山 念彼觀音力 不能損一毛 或值怨賊繞 各執刀加害 念彼觀音

力 咸即起慈心 或遭王難苦 臨刑欲壽終 念彼觀音力 刀尋段段壞 或囚禁枷鎖 手足被杻械 念彼觀音力 釈然

得解脫 呪詛諸毒藥 所欲害身者 念彼觀音力 還著於本人 或遇惡羅刹 毒龍諸鬼等 念彼觀音力 時悉不敢害

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

15日

赤口 井

旧7月24日

月曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

観世音菩薩の諸難救済②

「観世音菩薩は諸難から救う」

『普門偈』に説かれている十二の諸難救済です。

⑤ 怨賊難：盗賊にあっても盗賊が悔い改める↓
凶事にも動揺せず、恐怖から離れる

⑥ 王難：権力者からの迫害を免れる↓絶望の淵
から抜けたとき心の眼が開く

⑦ 枷鎖杻械難：枷鎖で繋がれても解かれる↓
心を縛る欲望や怠惰から解き放たれる

⑧ 呪詛毒薬難：呪う者に呪いと毒が返る↓
呪う者の仏性を開かせ後悔を促す

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

16日

先勝 鬼

旧7月25日

火曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

観世音菩薩の諸難救済③

「観世音菩薩は諸難から救う」

『普門偈』に説かれている十二の諸難救済です。

⑨ 諸鬼難：鬼や毒蛇に遭っても害せられない↓

自他の心の中の鬼を滅する

⑩ 悪獣難：野獣が迫ってきたても野獣が逃げてい

く↓獣のような心を持った者も改心させる

⑪ 虻蛇蝮蠍難：毒虫に追われても毒虫が逃げて

いく↓毒気を持った者も愚かさに気づく

⑫ 雲雷難：雷雨に遭っても雷雲が消えていく↓

心の怒りの稲妻を鎮める

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

17

日

友引 柳

旧7月26日

水曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

かん

のん

みよう

ち

りき

観音妙智力

「観世音菩薩の妙智力」

「妙智力」とはすべてに行き渡る正しい智慧。

仏さまの智慧と同じ「妙智力」を観世音菩薩は具えているので、人々の無数の苦しみを救うことができる」と説かれています。

周囲の境遇が複雑に絡み合い、苦しみの深みにはまってしまったとき、観世音菩薩の妙智力に救われたなら、本性を取り戻し、生まれ変わったような気持になることでしょう。

「妙」には蘇生の意味もあるといわれています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

18日

先負 星

旧7月27日

木曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

ぐ そく じん ずう りき

具足神通力

「観世音菩薩の神通力」

「神通力」に次の六神通があります。

①天眼通…人には見えないものを見通す力

②天耳通…人には聞こえない音声を聴く力

③他心通…人の心の中を見通す力

④宿命通…過去のありさまを知る力

⑤神足通…思い通りにどこへでも行ける力

⑥漏神通…煩惱を滅し尽くす力

観世音菩薩はこのような神通力を具え、すべての衆生の苦しみを救ってくださるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

19日

仏滅 張

旧7月28日

金曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

真観清浄観

しん

かん

しょう

じょう

かん

「真実を見極め、心の目を清らかにする」

「真観」とは真実を見極めること。

世の中が変わっても変わらない真実を常に求める気持ちがあれば、争いも起らないはずです。

「清浄観」とは煩惱のない清らかな眼で真実を見ること、目が曇ると真実は見えません。

自分の都合で考え、相手をうらやむ心が煩惱を生み、瞋りや争いにつながるのです。

真実を見極めようとする心を養い、心の迷いを減するよう努める、この双方が大切なのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

20日

大安 翼

旧7月29日

土曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

こう だい ち え かん
広大智慧観

「広大な仏の智慧」

真観と清浄観によって迷いがなくなれば、広大な智慧が発達していくものです。

広大な智慧には人を救う力も含まれます。

真実が見えると他者の苦しみも見えてきます。

それを放置しておけなくなるのは広大な智慧が身に付いてきた証です。

さらに山川草木一切を救おうとするのが広大な智慧、つまり仏の智慧です。

物言わぬ自然界の苦しみも救う智慧です。

法華経 日めくり

夏至

赤口 軫

旧7月30日

令和7年 乙巳

2025年

9月

21日

日曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

悲観及慈観

ひ かん ぎゆう じ かん

「観世音菩薩の大慈大悲」

「悲観」とは一切衆生の悩み苦しみを少しでも減らそうとする思い。

悩めるものをいつでも憐れむこと、「大悲」です。

「慈観」とは一切衆生に心の安らぎを与えること。

悩める者に安穩を与えるという「大慈」です。

これを「大慈大悲」といい、私たちの苦しみを減ら

そうと寄り添うのが仏さまや観世音菩薩です。

真観・清浄観・廣大智慧観・悲観・慈観を観世音

菩薩の五感といえます。

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五

念彼觀音力	火坑變成池	或漂流巨海	龍魚諸鬼難	念彼觀音力	波浪不能沒
或在須彌峰	為人所推墮	念彼觀音力	如日虛空住	或被惡人逐	墮落金剛山
念彼觀音力	不能損一毛	或值怨賊繞	各執刀加害	念彼觀音力	咸即起慈心
或遭王難苦	臨刑欲壽終	念彼觀音力	刀尋段段壞	或囚禁枷鎖	手足被杻械
念彼觀音力	釈然得解脫	呪詛諸毒藥	所欲害身者	念彼觀音力	還著於本人
或遇惡羅刹	毒龍諸鬼等	念彼觀音力	時悉不敢害	若惡獸圍繞	利牙爪可怖
念彼觀音力	疾走無辺方	虵蛇及蝮蠍	氣毒煙火然	念彼觀音力	尋声自回去
雲雷鼓掣電	降雹澍大雨	念彼觀音力	忘時得消散	衆生被困厄	無量苦逼身
觀音妙智力	能救世間苦	具足神通力	広修智方便	十方諸国土	無刹不現身
種種諸惡趣	地獄鬼畜生	生老病死苦	以漸悉令滅	真觀清淨觀	広大智慧觀
悲觀及慈觀	常願常瞻仰	無垢清淨光	慧日破諸闇	能伏災風火	普明照世間

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

22日

友引 角

旧8月1日

月曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

むくしょうじょうこう

無垢清浄光

「無垢清浄な光に皆が感化される」

観世音菩薩は智慧と慈悲を具えているので、無垢清浄な光で周囲を照らします。

周囲が明るくなり、多くの人を感化して世の中全体が善くなり厄災もなくなります。

観世音菩薩に救いを求めるとき、無垢清浄な光に照らされて感化され、いつの間にか自らも慈悲行を実践するようになるのです。

苦しい時にだけ観世音菩薩の救いを求め、身勝手にならぬよう気を付けましょう。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

6月

23日

秋分の日

先負 亢

旧8月2日

火曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

ひ たい かい らい しん じ い みよう だい うん

悲体戒雷震 慈意妙大雲

「慈悲の一念が私たちに降り注ぐ」

「悲体」とは、観世音菩薩が衆生の苦悩を除きた
いと体で示すこと。

人は間違いを起こしやすいため、それを正すた
めには「戒」が必要であり、衆生を救いたいの
思いから与えられる戒が「悲体戒」です。

「慈意妙」とは観世音菩薩が衆生を救いたとい
う願いが心の中に充滿していること。

その慈悲の一念は、雲のように私たちを包み込
み、恵みの雨は私たちに降り注いでいるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

24日

仏滅 氏

旧8月3日

水曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

衆しゆ怨おん悉しつ退たい散さん

「諸々の憎しみも退散する」

争いや訴訟が起きたとき、観世音菩薩を念じれば、大慈悲により教へと道が示されて争いの元が失せていくというのです。争いはお互いの慈悲心が足らずに起こるもの。争いを仕掛けたり、攻撃を受けたりしたときにも慈悲心を呼び覚ませば災いの根本から覆すことがのできるのです。雨のように降り注ぐ観世音菩薩の慈悲心を浴びていることを思い起こしましょう。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

25日

大安 房

旧8月4日

木曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

みようおんかんぜおん

ぼんのんかいちようおん

妙音観世音

梵音海潮音

しょううひせけんのん

ぜこしゅじようねん

勝彼世間音

是故須常念

「観世音菩薩の五音」

「妙音」とは一切衆生を救う教えを説く声。

「観世音」とは世の中のすべてを見通して、人それぞれに忘じた教えを説く声。

「梵音」とは煩惱を滅した清浄な心で説く声。

「海潮音」とは潮騒のように遠くまで響き、引いては返す波のように心に響く声。

「勝彼世間音」とは世間の人々の迷いを超越して包括し救済の教えを説く声。

この五つの音を観世音菩薩の五音といいます。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

26日

赤口 心

旧8月5日

金曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

ふく じゆ かい む りよう

福聚海無量

「福聚の海 無量なり」

観世音菩薩はあらゆる功徳を具えた仏に近い存在で、慈悲の眼で一切衆生を見守り、救い導こうという願いを持っています。

その一切衆生を救う力は、海に一切の水が集まるように無量の福徳を具えています。

そして、その福徳を拝受できる衆生も無量であるということです。

故に頭を垂れて観世音菩薩を礼拝し、観世音菩薩を範として自らも菩薩行に励みましよう。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

27

日

先勝 尾

旧8月6日

土曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

持地菩薩

じ ち ぼ さつ

「大地を支え持つような慈悲深い菩薩」

密教の胎蔵界曼荼羅の地蔵院の九菩薩の一人。

功徳と智慧にすぐれ、大慈大悲をもって一切衆

生を救済することが大地を支え持つようである

というところから名付けられた菩薩です。

その慈悲深い持地菩薩が「一切衆生を救済する

観世音菩薩のお力を知り、その福徳を拝し、観世

音菩薩にならない修行に励めばその功徳ははかり

知れない」とお釈迦さまに申し上げ、『観世音菩

薩普門品』は結ばれました。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

28日

友引 箕

旧8月7日

日曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

かい ほつ む とう とう

皆発無等等

「皆が一番勝れた悟りの境地を目指す心を発した」

「無等」とは「等しいものが無い」、つまり一番勝れているということ。

誰もが仏性も持っているので、努力を怠らず精進すれば「無等」に至ることができるのです。

「等」には「同じようなものを並べて示す」という意味もあり、「無等等」は一番勝れているものが複数あるということです。

『観世音菩薩普門品』を聞いた皆が一番勝れた悟りの境地を目指す心をおこしたのです。

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五

真觀清淨觀 廣大智慧觀 悲觀及慈觀 常願常瞻仰

無垢清淨光 慧日破諸闇 能伏災風火 普明照世間

悲体戒雷震 慈意妙大雲 澍甘露法雨 滅除煩惱焰

諍訟經官処 怖畏軍陣中 念彼觀音力 衆怨悉退散

妙音觀世音 梵音海潮音 勝彼世間音 是故須常念

念念勿生疑 觀世音淨聖 於苦惱死厄 能為作依怙

具一切功德 慈眼視衆生 福聚海無量 是故応頂礼

爾時持地菩薩。即從座起。前白佛言。世尊。若有衆生。聞是觀世音菩薩品。自在之業。普門示現。神通力者。當知是人。功德不少。佛說是普門品時。衆中八万四千衆生。皆發無等等。阿耨多羅三藐三菩提心。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

29日

先負 斗

旧8月8日

月曜

妙法蓮華経陀羅尼品第二十六

だ
ら
に
陀
羅
尼

「悪法を捨てて善法を持する呪文」

「陀羅尼」は梵語の発音「ダーラニー」に漢字を当てた語で、漢訳すると「総持」となります。

「総持」とは悪法を捨て善法を持する意で、仏さまの教えをよく記憶して忘れないことです。

本来は仏教修行者が覚えるべき教えや作法などを指し、やがてこれが転じて「暗記されるべき呪文」と解釈されるようになり、一定の形式を満たす呪文を特に陀羅尼と呼ぶようになりました。

『陀羅尼品』には行者守護の呪文が説かれます。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

9月

30日

仏滅 女

旧8月9日

火曜

妙法蓮華経陀羅尼品第二十六

ご しゆ ふ ほん

五種不翻

「陀羅尼を翻訳しない五つの理由」

唐の玄奘三蔵は仏教經典を漢訳する際に陀羅尼を翻訳しない理由をあげました。

①神呪は秘密の法であり、翻訳すべきでないし、できるものではない。

②多義を含むが故に訳すとその意を損なう。

③インドの世界観を中国語に訳せなかった。

④昔から使用した「語」のままに従っていた。

⑤翻訳をしないほうが言葉に重みと深みがあり神秘的で有難さがある。

妙法蓮華經陀羅尼品第二十六

爾時藥王菩薩。即從座起。偏袒右肩。合掌向佛。而白佛言。世尊。若善男子。善女人。有能受持。法華經者。若誦誦通利。若書寫經卷。得幾所福。佛告藥王。若有善男子善女人。供養八百万億。那由佗。恒河沙等諸佛。於汝意云何。其所得福。寧為多不。甚多世尊。佛言。若善男子。善女人。能於是經。乃至受持。一四句偈。誦誦解義。如說修行。功德甚多。爾時藥王菩薩。白佛言。世尊。我今當與。說法者。陀羅尼呪。以守護之。即說呪曰